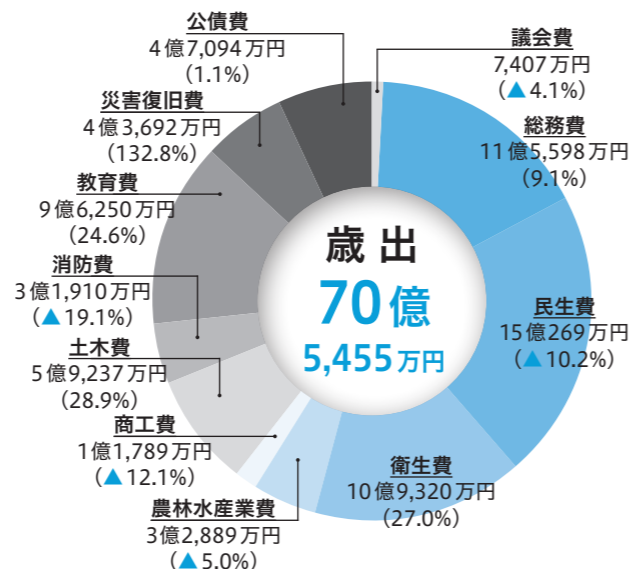


歳出の特徴

本県沖地震関連の事業などにより、歳出総額は増加しました。

子育て世帯への臨時特別給付事業などの完了により民生費が減少した一方で、令和4年3月の本県沖地震により被災した昭和大橋や伊達崎小学校などの復旧、災害廃棄物処理事業（被災家屋公費解体）による災害復旧費の増加、昭和大橋の防災減災対策強化事業や町道107号線道路修繕事業などによる土木費の増加、小中学校蓄電池更新事業などによる教育費の増加により、歳出総額は増加しました。



※（ ）前年度比増減率

性質別歳出内訳 ※（ ）前年度比増減率

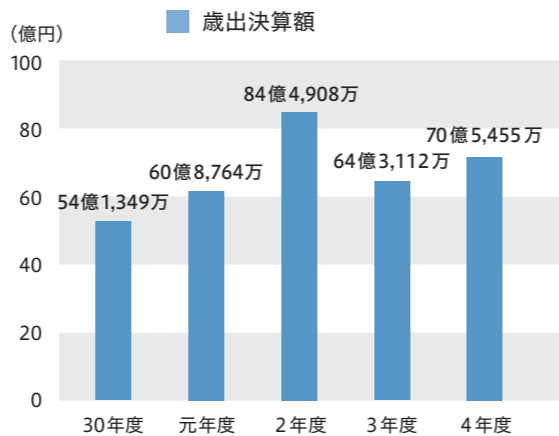
33.8% (▲6.8%)	義務的経費 23億8,294万円 人件費 12億9,644万円 扶助費※1 6億1,387万円 公債費 4億7,263万円 ※1 児童・高齢者・障がい者・生活困窮者を福祉の面で支えるお金
21.0% (6.8%)	投資的経費 14億8,468万円 普通建設事業費 6億5,609万円 災害復旧事業費 8億2,859万円
45.2% (0.0%)	一般的経費 31億8,693万円 物件費 12億7,779万円 繰出金※2 6億9,864万円 補助費など 7億6,205万円 その他 4億4,845万円 ※2 一般会計から他会計や各種基金へ繰り出すための経費

町民1人あたりの歳出決算額

費目	決算額	対前年度増減額
民生費	135,061円	▲12,740円
総務費	103,899円	10,263円
衛生費	98,257円	22,209円
教育費	86,509円	18,282円
公債費	42,328円	1,178円
土木費	53,242円	12,645円
消防費	28,680円	▲6,164円
農林水産業費	29,560円	▲1,010円
災害復旧費	39,270円	22,693円
商工費	10,596円	▲1,248円
議会費	6,657円	▲169円
諸支出金	0円	0円
合計	634,059円	65,939円

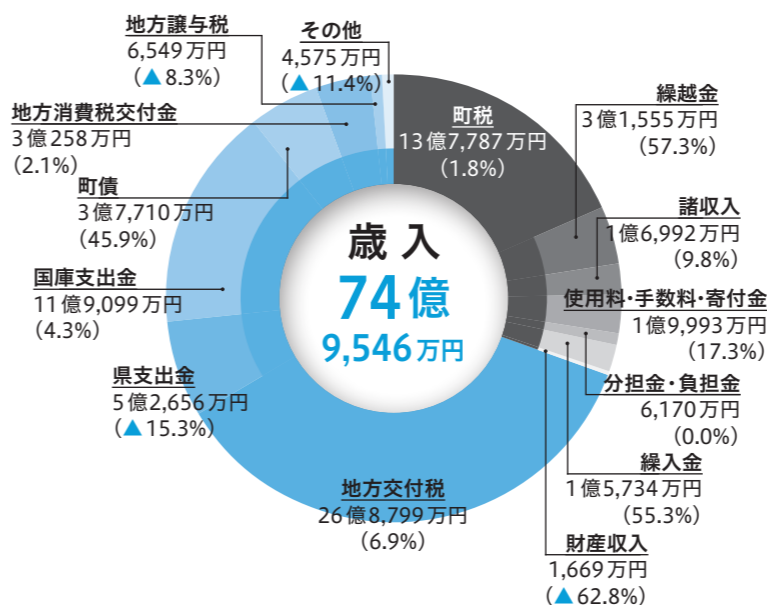
※令和5年3月31日現在の人口11,126人をもとに算出

歳出決算額の推移



用語の説明

【一般会計】 福祉や教育、土木といった一般的な事業に使われ、町の事業の基本となる会計 【自主財源】 町税や使用料など、町が自主的に収入できるお金 【依存財源】 地方交付税など、国や県の意味によって額が決まられ、割り当てられるお金 【町税】 住民が町に納める税金	【繰入金】 各種基金や他会計から一般会計へ繰り入れるお金 【地方交付税】 自治体の財政力に応じ、国から交付されるお金 【国庫・県支出金】 特定の目的のために、国や県から交付されるお金 【町債】 国や銀行などからの借入金 【公債費】 町債の返済に使うお金
---	--



歳入の特徴

地方交付税は、26億8,799万円となり、前年度比1億7,460万円増加しました。

県支出金が、除染廃棄物搬出作業や仮置場解体などの公共施設除染事業の完了により減少した一方で、普通交付税は、消防団員報酬に対する措置の拡充や国税収入が増えたことにより増加。また、特別交付税や国庫支出金、町債は、令和4年3月の本県沖地震に係る災害復旧事業により増加しました。

町民1人あたりの町税負担額	123,842円	前年比 +4,249円
---------------	----------	-------------

※令和5年3月31日現在の人口11,126人をもとに算出

令和4年度 桑折町の

決算とは、皆さんが納付した税金や、国や県からの補助金・交付金などがいくら入ってきて、どのような目的で使ったかを明らかにする「町の家計簿」のようなもので、町の1年間のおゆみ・記録となります。

決算

新総合計画「献上の郷こおり 未来躍動プラン」の初年度となった令和4年度。ウィズコロナ・アフターコロナ時代を見据え、町民のコミュニティ再生はもとより、社会経済活動の活性化に向けた取り組みを一層強化しなければならぬこととなることから、新総合計画の着実なスタートを切るため、6つの視点に立つ「6恵6幸こおり 未来プラン」を念頭に、「活力と賑わいに満ちたまちづくり」「危機管理に備えた安全・安心のみちづくり」など6つの重点項目に予算を優先配分し、「みんなが幸せを実感できる元気なまち こおり」の実現を目指して各種事業を執行しました。

その結果、歳入総額74億9,546万円（前年度比6.4%の増）、歳出総額70億5,455万円（前年度比9.7%の増）、歳入歳出差引額は、4億4,091万円となりました。このうち、やむを得ず翌年度繰越事業となった財源705万円を差し引いた4億3,386万円が剰余金となり、決算は黒字でした。剰余金のうち、2億2,000万円を財政調整基金に積み立て、残り2億1,386万円を翌年度へ繰り越しました。予算の執行にあたっては、事業の重点選択と諸経費の節減・合理化を図り、国や県の補助金など特定財源を確保しながら、財源の重点的かつ効果的な配分を行い、健全な財政運営に努めました。

特別会計決算

会計区分	歳入	歳出	差引額
国民健康保険	13億4,700万円	12億9,497万円	5,203万円
後期高齢者医療	1億9,029万円	1億8,508万円	521万円
介護保険	16億6,546万円	15億1,078万円	1億5,468万円
公共下水道事業	2億9,864万円	2億8,305万円	1,559万円

水道事業会計

会計区分	収入	支出	差引額
収益的収支	3億7,048万円	3億3,020万円	4,028万円
資本的収支	—	1億538万円	▲1億538万円

※資本的収支の不足額1億538万円は、留保資金および地方消費税資本的収支調整額などで補てんしました。

各種基金の残高 (令和4年度末)

会計区分	基金名	残高
一般会計	財政調整基金	14億2,057万円
	減債基金	1億3,375万円
	その他特定目的基金	9億6,863万円
	土地開発基金	1億2,021万円
	その他定額運用基金	8,000万円
合計		27億2,316万円
国民健康保険	国民健康保険基金	8,409万円
介護保険	介護給付費準備基金	1億1,915万円
半田財産区	財政調整基金	1,836万円

令和4年度 町財政の
「健全化判断比率」
「資金不足比率」
「経常収支比率」

実質公債費比率・将来負担比率ともに基準値内であり、
財政の健全性が保たれている 状況です。

(単位：%)

区分	2年度	3年度	4年度	
健全化判断比率	実質赤字比率 (15.0)	-	-	-
	連結実質赤字比率 (20.0)	-	-	-
	実質公債費比率 (25.0)	9.6	9.2	9.2
	将来負担比率 (350.0)	36.6	14.0	5.4
資金不足比率 (20.0)	水道事業会計	-	-	-
	公共下水道事業特別会計	-	-	-
経常収支比率	88.0	88.1	87.6	

※実質赤字比率、連結実質赤字比率および資金不足比率は、赤字や資金不足になっていないため、「-」で記載しています。()内は早期健全化基準。これを超えた場合、財政健全化団体(黄信号)として、自主的・計画的な改善が義務付けられます。

※1 標準財政規模…その地方公共団体が標準的な行政活動を行う上で通常見込まれる一般財源(用途の特定がない財源)の規模【桑折町はおおむね38億円程度】

財政健全化法に基づく指標として、健全化判断比率、資金不足比率がありますが、そのうち、実質公債費比率、将来負担比率は基準値内であり、公営企業(水道・公共下水道事業)会計の資金不足比率も資金不足がないことから、財政の健全性が保たれています。実質公債費比率は、令和3年2月本県沖地震災害復旧事業に係る借入に伴い、元利償還金が増加したことで単年度では増加したものの、3か年度平均で見ると、増減はありませんでした。将来負担比率は、町債償還が着実に進展し借入金残高が減少したことなどにより8.6ポイント減少しました。

実質公債費比率

一般会計などが負担する地方債償還金(借金の返済)の標準財政規模※1に対する割合の3か年平均値。町が年間どのくらいを借金返済に充てているかを指標化したもの。家計に例えれば、借金返済額の年収に占める割合。

将来負担比率

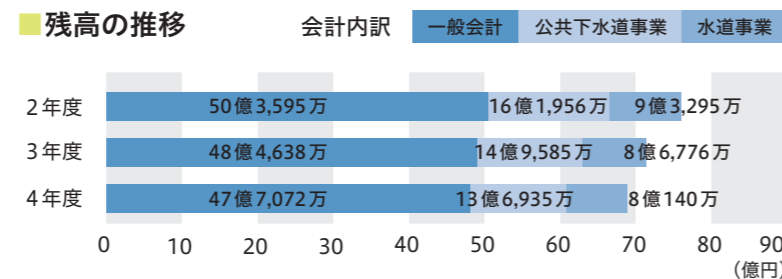
一般会計などが将来負担する実質的負債の標準財政規模※1に対する割合。将来負担見込額から基金などを控除したものが年間収入の何%に相当するかを指標化したもの。家計に例えれば、借金残高の年収に占める割合。

経常収支比率

経常的経費(人件費や扶助費など)の経常的に収入される一般財源に対する割合。財政構造の弾力性を指標化。比率が低いほど新規事業に充てられる。家計に例えれば、生活費など固定費の給料に占める割合。4年度県市町村平均は89.4%。

町債の状況

町債残高は、実質公債費比率と将来負担比率に大きく関わってきます。右記のグラフは、過去3年間の各会計の推移です。



令和4年度末 町債などの残高

会計区分	3年度末残高(A)	4年度借入額(B)	4年度償還元金(C)	4年度末残高(A)+(B)-(C)	
町債	一般会計	48億4,638万円	3億8,099万円	4億5,665万円	47億7,072万円
	公共下水道事業特別会計	14億9,585万円	3,180万円	1億5,830万円	13億6,935万円
企業債	水道事業会計	8億6,776万円	-	6,636万円	8億140万円

令和4年度
主な使いみち

「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」に基づき、健全な財政を保ちながら、桑折町らしいまちづくりに取り組みました。重点プロジェクトと基本構想別に、主な事業を紹介します。

重点プロジェクト	(単位: 万円)	健康長寿で元気なまちづくり
相馬福島道路伊達桑折IC周辺土地利用検討事業	687	健康づくりと医療の推進(新型コロナウイルス感染症予防事業、予防接種事業、特定健診など) 16,748
消防ポンプ車購入事業	2,250	地域福祉と障がい者福祉の推進(障がい者福祉扶助費、住民税非課税世帯臨時特別給付金事業など) 39,373
住宅用再生可能エネルギーシステム設備等設置費補助事業	345	高齢者福祉の推進(高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施、敬老の日記念事業など) 2,971
こおり健康楽会事業	293	生涯学習の推進(公民館運営推進員の配置) 702
学力向上対策事業	5,876	生涯スポーツの推進(スポーツ・健康講演会など) 212
桑折西山城まつり事業	999	子どもを大切にすまちづくり
活力と賑わいに満ちたまちづくり		子育て支援の充実(子ども医療費助成事業、子育て応援商品券給付事業、ネウボラ事業など) 10,245
農業の振興(地域おこし協力隊委託事業、営農再開支援事業、有害鳥獣対策事業など)	14,620	乳幼児保育と教育の充実(保育所運営業務、幼稚園運営業務、放課後児童保育事業など) 30,794
商工業の振興(空き店舗出店支援事業、商工業活力再生事業、商店街活性化推進事業)	233	学校教育の推進(特別支援教育の充実、学校施設の修繕改修事業、給食センター設備機器更新など) 6,605
コロナ・物価高騰対策事業(GoToEatこおり食事券発行事業、運送事業者等支援金給付事業など)	5,639	交流で絆を育むまちづくり
土地利用の推進(町都市計画マスタープランの見直し、蚕糸跡地利活用関連事業)	870	観光交流の振興(町民研修センター指定管理業務、農業振興活動拠点施設管理運営事業、桑折町振興公社運営補助など) 4,502
危機管理に備えた安全安心のまちづくり		歴史まちづくりの推進(桑折西山城跡を守る会事業補助金) 50
消防・防災の強化(伊達地方消防組合運営負担金、消防団活動費、防火貯水槽新設事業など)	27,244	移住・定住の促進(若者定住促進事業、新婚世帯家賃支援事業、移住支援給付事業など) 1,594
生活安全対策の推進(防犯対策事業、交通安全対策事業、消費者行政対策推進事業)	928	シティプロモーションの推進(献上桃の郷こおりシティプロモーション事業) 2,192
暮らしと自然が調和した豊かさを実感できるまちづくり		町民との共創と効率的な行財政運営
都市緑化・景観づくりの推進(緑地公園維持管理事業)	1,005	健全で持続可能な財政運営(ふるさと納税事業、マイナンバーカード交付推進業務など) 8,393
道路・交通ネットワーク整備(橋梁維持事業、町道新設改良事業など)	19,078	行政機能の充実強化(デジタルデバイド対策事業、行政手続きオンライン申請管理システム構築事業) 1,010
居住環境の充実(合併処理浄化槽設置整備補助事業、住生活基本計画策定事業、簡易水道組合調査業務など)	2,472	誰もが参加できるまちづくりの推進(第3次男女共同参画プラン策定業務、SDGs推進町会議事業費補助金など) 2,590
環境共生の推進(桑折地区かわまちづくり整備事業、ごみ再資源化活動奨励金事業)	1,327	広報・広聴の充実(広報こおり発行・町ホームページ運用管理業務) 437
森林環境の保全(ふくしま森林再生事業、森林病虫害防除事業、半田山自然公園管理業務委託)	6,123	災害復旧事業
環境衛生の充実(伊達地方衛生処理組合運営負担金、一般廃棄物収集運搬業務委託など)	11,808	令和4年3月本県沖地震に係る災害復旧事業(災害等廃棄物処理事業、昭和大橋ほか公共施設災害復旧事業など) 69,472

令和5年度

一般会計上半期予算状況

今年度の当初予算総額は60億9,260万円でしたが、その後の予算補正により9月末の予算現額は、64億4,843万円となりました。

予算補正の主なもの

伊達桑折IC周辺インフラ整備事業	4,261万円	福祉施設等電力・ガス価格高騰支援事業	1,530万円
住民税非課税世帯等への臨時特別給付事業	3,573万円	農業用資材等高騰緊急支援事業	453万円
こおりプレミアム商品券(第4弾)発行事業	1,896万円		